瀬戸内市は生き残れるか!?

行革シンポジウム

邑久町公民館で9月2日、村尾信尚関西学院大学教授を講師に迎え、行革シンポジウムが開催されました。

瀬戸内市が誕生し、まもなく2年を迎えようとしています。市民が住みたいまちをつくるには何が必要なのか一緒に考え、勇気と知恵を共有し、新しいまちづくりに参加しようと「住みたい瀬戸内市を創る市民ネットワーク（SSネット）」が主催。

「役所は変わる!! もし、あなたが望むなら」と題する村尾さんの基調講演が行われました。

経験談から行革の必要性を熱く語る村尾信尚さん

講演の要旨をご紹介します。

市民に説明責任を果たす

村尾さんは、大蔵省に入省後、三重県に総務部長として出向。カラ出張のスキャンダルに遭遇し、これに対処をしていく中、行革の必要性を痛感しました。

また、イギリスやカナダの先進地へ視察に訪れ、納税者への説明責任を強く意識しました。

帰国後、県が行っている各種事業3千項目以上ある事業のうち、275の事業を民間、国、市町村へ、202の事業を廃止するという行革に着手。その内容を県民に公表しました。

「納税者に説明責任を果たす」という情報公開は必要です。すべてを公表し、いろいろな圧力に屈せず、住民と共に考えることが大切です。

限りなく透明に近い瀬戸内市役所をつくる

借金があるという現実を、市民に包み隠さず知らせ、みんなで知恵や力を合わせなくてはならない時代が来ています。これから戦わなくてはならないものは、市民の行政に対する無気力・無関心。市民の心に火を付けられるかどうかが、求められています。

市民・企業・役所がトライアングルで調和を保つには、限りなく透明に近い瀬戸内市役所をつくること、つまり情報公開することが最重要な課題です。

情報公開し、批判や反発を受け、前向きに考え、そしてさまざまな意見を聞くこと。借金を先送りすることなく、生き残るためには、住民参加は不可欠なものです。「情報公開」こそ、協働の市政をつくっていく上でのキーポイントです。

活発に意見が交わされたシンポジウム

基調講演に続き、福武總一郎（そういちろう）ベネッセコーポレーション会長、永瀬秀美備前県民局協働推進室長、日下英男瀬戸内市企画部長がパネリスト、村尾さんがコーディネーターのシンポジウム「瀬戸内市は生き残れるか!?」が行われました。

活発に意見が交わされたシンポジウム

行財政改革の進め方、地方分権時代の自治体の在り方などについて、活発に意見が交わされ、会場の多くの市民が、パネリストたちの意見に耳を傾けました。

住み良いまちづくりに向け、一歩を踏み出したシンポジウムとなりました。

卓球界の新星 アジアの強豪と対戦

成本綾海さん

牛窓東小6年

18年度全日本卓球選手権大会ホープス女子シングルス（7月28～30日・神戸総合運動公園）と東アジアグランプリホープス卓球選手権大会（8月23～25日・大阪府立体育会館）に出場した成本綾海選手（11歳・牛窓町牛窓）。148センチで小柄な成本選手は、サウスポーで切れのいいドライブが武器。

全日本卓球選手権大会では、実力が思うように発揮できず苦い思いをしましたが、東アジアグランプリホープス卓球選手権大会では、中国、韓国、香港、マカオなど8カ国の世界の強豪を相手にシングルスで21位の成績を残しました。

兄や姉の卓球の練習に付いて行き、5歳で初めてラケットを握った成本選手は、自宅で父とフォア打ちをするほど練習熱心。その実力が発揮されたのが、小学校2年生の時で、全日本卓球選手権大会バンビの部（8歳以下）でベスト32入りを果たしました。

「毎日練習がしたい」との思いから、岡山市山崎の安井クラブに所属し、午後6～8時まで2時間の練習をこなしています。監督との多球練習やクラブのメンバーとの試合に精を出す成本選手は「思うようにプレーできない時はつらいけど、日の丸を付けて、中国や韓国の人たちと戦って勝ちたい」と目を輝かせます。

東アジアグランプリホープス選手権の代表として、7月31日から8月5日まで中国・広州で強化合宿にも臨みました。中国選手との対戦で、レベルアップの必要性を痛感した成本選手。海を越えての合宿は、技術向上と同時に友情もはぐくみ、「なかなかできない経験をさせてもらった」と大きなものを得たことを喜びました。

9月1～3日、長野県でナショナルチームの合宿にも参加。21人のリーグ戦で6位の成績を残し、ますます実力を伸ばす成本選手のこれからの活躍が楽しみです。

「たくさんの人の力を借りて、強くなっていることを分かってほしい」と話す母嘉野さん。本気で選手を支える家族の温かい姿が、そこにはありました。